

生活基盤施設耐震化等交付金事前評価

■事業概要

事業実施主体	津野町	計画期間	平成27年度～平成28年度
計画の名称	高知県における津野町管内(大野地区)の水道施設強靱化推進		
計画の目標	津野町管内の大野簡易水道・栗ノ木飲料水供給施設の災害対策として、事業の統合に併せて基幹施設の耐震化及び管路の更新を行い、南海トラフ地震に備える。		
定量的指標 (成果目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大野簡易水道内における耐震性配水池整備率の向上(平成26年度末：0%→平成28年度末：100%)</li> <li>・大野簡易水道内における緊急遮断弁整備率の向上(平成26年度末：0%→平成28年度末：50%)</li> <li>・大野簡易水道内における管路の経年化率の減少(平成26年度末：100%→平成28年度末：0%)</li> <li>・大野簡易水道内における管路の耐震適合率の向上(平成26年度末：0%→平成28年度末：74%)</li> </ul>		

■事業評価

項目	評価
<p>1. 目標の妥当性</p> <p>上位計画等との整合性</p> <p>地域の課題への対応</p>	<p>大野簡易水道施設は昭和55年より稼働しており、34年を経過、栗ノ木飲料水供給施設は昭和61年3月に竣工した地区管理の施設であり、30年近くを経過している。両施設において更新時期を迎えていることに加え、南海トラフ地震を踏まえて、災害対策の推進が急務となっている。併せて周辺の未普及地区の解消を図ることにより、地震に備えた安全で安定した水道水を供給することができる。</p>
<p>2. 計画の効果・効率性</p> <p>事業計画の目標と定量的指標の整合性</p> <p>定量的指標の明瞭性</p> <p>目標と事業内容の整合性</p> <p>事業の効果の見込みの妥当性</p>	<p>計画目標達成のため、定量的指標の目標値を定め災害対策の強化を図る。</p> <p>耐震性配水池の整備率については、耐震補強により耐震化の基準を満たす配水池の箇所数を元に算出している。</p> <p>緊急遮断弁整備率については、遮断弁を整備する配水池の箇所数を元に算出している。</p> <p>管路の経年化率については、老朽化管路を更新する管の延長を元に算出している。</p> <p>管路の耐震適合率については、耐震適合性のある管路延長を元に算出している。</p> <p>配水池については、耐震基準を元に建設を行うことで効果的に耐震化が図れる。</p> <p>緊急遮断弁については、大野簡易水道施設の配水池用に整備し、補給場所として確保することが効果的である。</p> <p>管路については、管種や布設年度を考慮し、計画的に更新を進めることが効果的である。</p>
<p>3. 計画の実現可能性</p> <p>円滑な事業執行の環境</p> <p>地元の機運</p>	<p>事業については、新設のため用地取得等の手続きが必要である。地元との連携を密にし、協力を仰ぎながら事業を進める。</p> <p>また、必要に応じて地元説明会、協議の場を設けていく。</p>